

館名：現代産業科学館

事業名：特別展「飛べ！ 大空にーとばすワザ とぶフシギー」

評価対象	特別展「飛べ！ 大空にーとばすワザ とぶフシギー」
評価項目	7 展示 ②企画展示(入場料の変更が必要な展示)
項目概要	使命に則した事業であるか。

① 事業の目的

A. 本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか

目標・指標	①千葉県現代産業をわかりやすく伝える。 ②科学技術をわかりやすく伝える。 ③広く科学技術に興味・関心を広げてもらう。 ④幅広い年齢層の方に楽しんでもらう
実績・内容	・ちば文化発信プロジェクトとして千葉県の航空産業を取り上げ、展示・全天周大型映像・関連イベントという3つの提示方法で計画し実施した。それぞれ各年齢層に対応するようにした。 ・千葉の航空産業として、成田国際空港を中心に、空港機能や利用状況、そこでの職種などの観点で紹介した。 ・飛ぶ科学について、揚力や飛行機及びエンジンの種類など様々な観点から紹介した。 ・小学生・幼児・一般向けの展示を作成した。
段階評価	3.8 [4(石川・加藤・戸枝・村井)、3(黒田)]
所見・指摘	・館に適した企画である。 ・テーマは、年齢を問わず広く来館者に理解と興味を提供できるものであったと思う。 ・全体としてアイキャッチが足りないと感じた。例えばコルトプラザ側から、大きな模型飛行機やプロペラなど、目を引く何かがあるとよい。
対応	○これからも県立の科学館として、千葉の現代産業とそこにある科学技術を分かりやすく県民に伝えられる企画やテーマを選び、調査研究の成果として企画展で公開していきたい。 ○館の外側のアイキャッチは効果が大きいので是非実現したい。 ○アイキャッチの効果のある展示物は、大きさ、耐候性が求められ運搬や安全な設置のための予算を得られるよう、この指摘を根拠に要求したい。また、近隣施設での館への誘導ポスター掲示についても引き続き検討する。

② 事業内容

A. 目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか

目標・指標	①千葉県と航空産業(空港等)との関連に興味を湧かせる展示。 ②航空力学などの科学技術がわかりやすく展示。 ③展示空間や資料に応じた展示手法等を工夫。 ④施設を有効利用して空から宇宙、生命へ、自然一般に興味をもってもらえる全天周映像を上映。 ⑤特別展に関連した教育普及活動。 ⑥すべての年齢層が楽しめるよう企画全体をコーディネートする。
実績・内容	①日本民間航空発祥の地である稲毛を中心にして千葉県の航空史を展示・紹介、日本の表玄関となる成田国際空港の機能、実績、業務、職種を模型、映像等で紹介した。また、医療、消防、警察など社会の保安・救急のために県内各地で活躍する様々な航空機を紹介した。 ②飛行の基本原則である翼で生ずる揚力について実験装置で体験していただいた。推進力を発生させる様々なエンジンの説明では使っている航空機の模型とともに展示した。離れたところに展示した大型の実物(エンジン、翼の断面)の場所をキャプションで示し理解を図った。現在研究開発しているこれからの航空技術について映像、模型を展示し、その発展としての宇宙まで紹介した。 ③従来の企画展示室だけではなく、周辺のエントランスホール、サイエンスドーム、常設展示場の一部、科学情報コーナー、特設コーナー、ワークショップを使用し、大型の資料を広い空間で展示する等、館の入口部から通常の常設展示スペースまで使って広く展開した。エントランスホールには大型の航空機模型、エンジン実物、インターネットを利用しての民間航空機フライト情報のリアルタイム表示、成田空港で使用している旅客専用のカート、航空発達史年表、発明クラブ絵画展を展示するとともに、天井の高い空間を利用して空港をイメージする大型の掲示を行い1階フロア全体で特別展の雰囲気を作りだした。企画展示室では、入口に特別展を印象づける空港ゲート風の門を設置し、さらに、展示室内にも展示壁を設けて空港や機内をイメージできるようにした。 ④全天周映像として、宇宙と星に関する映画と、自然生命に関する映画を一本ずつ、合せて一日に2本の映画が観られるようにし、すべての作品を会期前半と後半で入れ替えるようにした。4本とも、大

	<p>人から子どもまで楽しみながら学べる映画であり、ドーム用に特別編集した直径23メートルの大画面を活かした迫力満点の映像であった。</p> <p>⑤ 関連イベントで工作教室3(こども模型飛行機教室、折り紙飛行機教室、紙トンボ教室)、講座4(フライトシミュレータ教室、麻薬探知犬デモンストレーション、こどもマーシャリング教室、パイロット・CAの仕事講演会)、入館者参加イベント3(航空ジャンク市、ラジコン飛行機操縦見学会、ゆるキャラ集合)、展示1(発明クラブ絵画展)を計画していたが、追加で入館者参加イベントが1事業(飛行船展示飛行とパイロットトークショー)加わり計12事業実施した。〈参加者 工作教室302名、講座441名、入館者参加イベント2,293名 総計3,036名〉</p> <p>⑥ 小学生未満の子どもが遊ぶ体験コーナー、小学生対象のフライトシミュレーター、大人までを対象とした本格的なフライトシミュレーター教室・ジャンク市などを準備して幼児から大人まで楽しめるようにした。展示では家族向けの「空港へのアプローチ」、学齢前の幼児向け「飛行機おもちゃコーナー」、家族子ども向けの「旅客機内部体験コーナー」、小学校高学年以上向けの「とぶ科学」、一般向けの「本県を中心とした航空の歴史」「千葉で活躍する航空機」という展示構成とした。大型映像は、家族子ども向けの「宇宙兄弟」「銀河鉄道の夜」と科学的な内容で小学校高学年から一般の方が楽しめる「ライフ」「マイクロちゃんと行く宇宙の旅」の4作品を前期後期に2本ずつ上映した。イベントは、子どもや家族連れ向けを9イベント、一般向けを3イベント、土日を中心に実施した。</p>
--	---

段階評価	3.2 [4(戸枝・村井)、3(石川・加藤)、2(黒田)]
所見・指摘	<ul style="list-style-type: none"> 航空発祥の歴史コーナーでは、パネルの1枚1枚はよくできていると思うが、例えば過去の地名表示が現在のどの場所にあたるのか等、細かい配慮があるとより良かったと思う。 順路が分かりづらい。全体見取り図や、入口にグランドデザインが示されているとよい。 「不思議の種」のキャッチコピーをパネル化したのはよいが、文字が小さく、掲示場所もよくない。 パネルが続けて何枚も掲示されているが、適度な間隔をあけると読む集中度があがる。 導線は振り返り動線ではなく、正面動線とすべき。高さなども検討が必要。公開前に解説員や子供たちにチェックしてもらう必要がある。 解説パネルは説明内容を「全体的なこと」「細部」「中間」に分けて、文字の大きさ等でメリハリをつける。大きな文字での表現は子供向けにするとよい。また、パネルの文章が分かりにくい。女性や子供の感覚で文章を練ると、表現が柔らかくこなれてくる。 館蔵資料の飛行船をエントランスホールの空間に展示しているのは関連資料の有効利用であり、特別展の雰囲気が出ていてよいと思う。 ハンズオン展示がもっと多くてもよいと思う。 「フライトレーダー」はとても面白いが、解説やアナウンスが不足している。 ミュージアムショップの品ぞろえが、特別展と連動していなかった。ジャンク市は毎日やっているわけではないので、少なくとも会期中は関連商品があるとよい。 <p>(有識者追記)</p> <p>村井) 関連イベントは、館職員をあげて取り組んでおり、意気込みを感じる。利用者の反応もよかったと思う。今後も館全体で盛り上げていく姿勢は重要。また、数値目標が提示されていないので、判断しづらい。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展会場案内(全体案内)が足りなかった。後から追加したが小さくて目立たなかった。開催時から全体が分かるように計画し制作していく。 ○導線は、観覧しやすい正面導線になるよう今後注意する。 ○解説パネル、キャプションの内容、配置など入場者に分かりやすく自然にみてもらえるよう指摘をふまえて計画的に作成していく。ほとんどすべてが借用資料であるので展示物なしでの製作検討であるが、あると想定してのシミュレーションで対応したい。女性や子どもの感覚での文章表現はまず館職員を動員していきたい。「フライトレーダー」は大型のキャプションを追加した。 ○触って確かめることのできるハンズオンを多くしたかったが、今回は器材借用や製作がこれ以上できなかった。これからの企画でもボランティアを含めた人員配置とともに計画したい。 ○ミュージアムショップについては、教育振興財団に運営委託しているが以前から販売しているペーパークラフト飛行機だけで、新規の商品取り扱いができなかった。今後、企画展ごとに関連商品の販売を目指したい。 ○今回のテーマは関連イベントが多く企画できるものであった。今後の企画展でも入場者の理解を深めるとともに宣伝効果をねらい計画していきたい。数値目標は実施回数・参加者数・参加者の満足度等考えられるが、異なるイベント内容でも共通に集計できる項目を検討したい。 ○「不思議のたね」パネルのデザインを26年度の館リーフレット表紙デザインに使用し、館の外、エントランス、手に持つ案内と連続して展示場へつながるように計画している。

③ 入館者の満足

A. 入場者は、満足してくれたか

目標・指標	<p>〈各館が設定した目標の達成〉</p> <p>①入場者数が多い。目標 15,000 人(有料入場者 7,600 人)</p> <p>②アンケート調査での「たいへん良かった」「まあまあ良かった」の回答数が 80%以上。</p>
実績・内容	<p>①期間 11.9(土)～12.15(日)、うち 開催日数 32 日の入場者数 6,313 人(有料入場者 2,092 人) 1日当たり平均入場者 197 人(有料 65 人)/目標の 42%(有料入場者は目標の 27%)</p> <p>○24 年度企画展との比較(1日当たり)は入場者数 133%(有料入場者 175%)</p> <p>参考:24年度企画展<10.20～12.9> 入場者数 6,505 人(有料入場者 1,648 人) 開催日数 44 日 1日当たり平均入場者 148 人 有料入場者 37 人</p> <p>②回答者 207 名中、特別展の感想に関する質問への回答は、「たいへん良かった」118 名(57%)、「まあまあ良かった」44 名(21%)、「普通」8 名(3%)、「あまり良くなかった」2 名(0%)、「良くなかった」2 名(0%)、「無回答」33 名(15%)であった。「たいへん良かった」と「まあまあ良かった」を合わせると、78%となる。</p>
段階評価	3.0 [4(石川)、3(加藤・戸枝・村井)、2(黒田)]
所見・指摘	<p>・アンケートは満足度を5段階で調査すると、「中間」が増える傾向があるので、4段階とした方が良い。(有識者追記)</p> <p>戸枝) 今後の展示では、アンケート調査サンプル数を増やす工夫をしてほしい。また、クロス集計をして、館の利用者傾向の把握に努めてほしい。</p> <p>村井) 入場者数アップに対する対策が必要。原因や要因を分析し、来年度の事業で改善を挑むべき。また、アンケートについて、また、「大変よかった」の回答者が、展示だけの利用者か、イベントも参加した人か等、今後の事に活用できるよう分析をしてほしい。</p>
対応	<p>○次回事業より4段階での調査を検討したい。</p> <p>○アンケートの設置場所を複数にするなど、サンプル数の改善に努めたい。</p> <p>○今回のアンケートは、映像出口と企画展示室出口に設置したが、映像会場出口での「大変よかった」の回答は映像の評価に偏った可能性がある。次回からは、事業内容ごとに感想を調査する方法を検討したい。</p>

④ 運営

A. 館職員の創意と総力を活かすとともに外部と協働した運営がなされていたか

目標・指標	<p>①幅広い年齢層の方に楽しんでもらうため、多数のイベントを計画し複数を同時に円滑に実施。</p> <p>②地域ボランティアの方が多数参画し、職員とともに役割を理解して活動している。</p> <p>③民間、他の博物館等との連携・協力関係が良好である。</p> <p>④外部助成を受けている。</p> <p>⑤本事業の狙いや過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報活動を行う。</p> <p>⑥回答率及び分析効率を高める工夫を凝らしたアンケート調査を実施する。</p>
実績・内容	<p>①展示や大型映像上映と並行して、子どもや家族連れ向けを9イベント(こども模型飛行機教室、折り紙飛行機教室、麻薬探知犬デモンストレーション、こどもマーシャリング教室、パイロット・CAの仕事講演会、ラジコン飛行機操縦見学会、ゆるキャラ集合、発明クラブ絵画展、飛行船展示飛行とパイロットトークショー)、一般向けを3イベント(航空ジャンク市、フライトシミュレータ教室、紙トンボ教室)を、土日祝に実施、職員の分担を決めボランティアの協力を得て運営した。期間中、展示室内において外部助成を得て製作したフライトシミュレータ装置を使い小中学生を対象とした体験展示を実施した。誰でも体験できるようにするため操縦方法を指導する館職員を配置し運用した。入場者の多い際はその都度、展示や入場者管理、補助説明のため随時当番外の館職員が対応した。</p> <p>②15 名(延べ 47 名)のボランティアの方が企画展示室及び映像会場の整理・案内係として活動した。</p> <p>③民間企業 10(朝日航洋(株)、全日空(株)、東レ(株)、成田国際空港(株)等)、博物館4(航空科学博物館、稲毛民間航空記念館等)、公的機関5(成田空港検疫所、千葉県警察、東京税関等)、大学・研究機関3(JAXA、東北大学、日本大学)、法人等4(日本航空協会、関宿滑空場等)と連携、協力を得て開催。</p> <p>④一般財団法人全国科学博物館振興財団の科学系博物館活動等促進事業の助成を受け、展示室内での小中学生体験用のフライトシミュレータ装置を製作し展示した。</p> <p>⑤過去の広報効果を考慮し、駅張りポスターの充実や、新聞への有料広告掲載などに努めた。</p> <p>⑥企画展示室と映像出口の2か所に記入場所を設置し、回答率向上に努めた。マークシート方式として機械集計により分析効率を高めた。</p>
段階評価	3.4 [4(加藤・戸枝)、3(石川・黒田・村井)]
所見・指摘	<p>・関連する企業をスポンサーとしてうまく活用できないだろうか。企業等に PR をさせながらこちらにもプラスになるような工夫ができないか検討すべき。</p> <p>・インターネットでの発信は、館の HP だけでなく、市川市や航空科学博物館等、関係する自治体や機</p>

	<p>関それぞれのHPでまとめて打つ必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートをSQS式にしたのはよいが、機械での読み取りには必ず間違いがあるので、書き出された集計データは最低一度はチェックしてほしい。アンケートの記入場所は途中ではなく、出口付近が好ましい。 <p>(有識者追記) 戸枝) 多くの関連イベントが組まれているのは、幅広い入館者を集めるのに有効である。館の周知、リピーターの増にもつながると思う。 村井) 館職員の創意と総力を活かすとともに外部と協働した運営がなされていたと思うが、利用者が少ないのでは、協力者に対しても失礼。もっと広報や利用促進策に力を入れるべき。また、数値目標を設定すべき。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○関連企業のスポンサーは検討したい。展示内容の調査や資料借用担当が中心の実施グループであるが、内容や解説作成担当以外のいわゆる収益担当を設定して進めたい。 ○市川市等と連動したインターネットでの配信については、事業自体における連携関係を強化するなど、双方向のメリットなどを充足させるような工夫をした上で、検討していきたい。 ○ボランティアの方の協力を得て、SQS式での集計のクロスチェックを行った。 ○今回のテーマは関連イベントが多く企画できるものであった。今後の企画展でも入場者の理解を深めるとともに宣伝効果をねらい計画していきたい。 ○数値目標 (イベント): 実施回数・参加者数・参加者の満足度等考えられるが、異なるイベント内容でも共通に集計できる項目を検討したい。 (良好な連携・協力関係): 企画により協力相手対象が変わるので、この項目は数値では表せないと考える。

総合評価	3.5	4(石川・戸枝)、3.5(加藤)、3(黒田・村井)
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・建物全体が広い空間であり、産業科学の分野も広範囲であるため、一つのテーマに絞って展示を充実させるには大変な労力が必要であると認識した。 ・広報については、全体的に線が細い印象がある。駅からの路上、建物周辺、館入口等、特別展の存在をアピールするものが足りない。 ・職員は定期的な異動があるため、テーマ追求や研究の引継ぎに苦労があるだろう。中長期の方向性や、継続性に一工夫あると運営しやすいのではないかと。 ・展示開発をする際には制作途中評価を実施すれば説明パネルの文章がばらばらだったりすることが防げる。企画段階、完成間際のそれぞれの段階での評価を行うべきであり、そのような途中評価を習慣化することが大切である。 <p>(有識者追記) 戸枝) 航空ファンは大勢いる。個人撮影・持ち込みの航空機写真展(コーナー)などを開き、企画展の広報と入館者増を図ることもできたのではないだろうか。 村井) 職員をはじめ、多くの協力者ががんばった事業だと思うが、まだ創意工夫や技術不足の点が残っている点と、利用者数が目標に達成できなかったことから、3とする。学校でない科学館での学びのあり方を職員間で共有し、展示や教育普及ツールの開発スキルを高めるための研修に力を入れないと、現代産業科学館は生き残ることはできないと思う。もうふた踏ん張りぐらい、がんばってほしい。</p>	
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は特別展予算であったのでエントランスホールの大型掲示、多くの資料配置などができたが、例年の企画展で予算が小さい中でも開催を印象づける掲示や造作に工夫していきたい。 ○今回は特別展の企画準備がやや遅れがちであり、広報の狙いを絞る作業が遅れてしまった。次回は、早期に目玉展示物の広報資料を作成するなどし、広範囲な広報を展開したい。 ○本館の場合学校から異動し初めて特別展(企画展)や委託・輸送等の契約と執行を経験する職員も多く、毎年度新しい担当グループで特別展(企画展)を実施している。前年度の調査や交渉経過を聞き取り、4月から作業開始して特別展を開催する。次の企画展に向けて、既に本年度中に展示方針を定め共通理解を図り、新入職員も一丸となって準備に取り組めるようにしている。 ○制作途中評価は実施していきたい。複数(4・5人)で担当しているので経験の差から業務の進捗をそろえ、内容を共有することがまず最初の作業である。解説計画については展示がほとんどすべて借用資料なので展示物なしでの製作・検討であるが、あると想定してのシミュレーションで対応したい。 ○今回展示場での会話でファンと思われる方、グライダー関係者、航空業界志望者等の入場者が多いようだった。特別展(企画展)のテーマに関心のある一般の方々(ファン)に展示についての協力を求めることもこれからは計画していきたい。 ○創意工夫や技術不足の点は毎年指摘されるとおりである。教員からの異動者が多く数年で学校に戻るため、博物館・科学館の経験の積み重ねに課題がある。学校でない科学館での学びのあり方を職員間で共有し、展示や教育普及ツールの開発スキルを高めるための研修も経験の少ない職員でも取りかかれるようにしていきたい。 	

館名：美術館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「バーチャル・ミュージアム」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：近年の学校教育でのキャリア教育とグループワークを重視し、平成22年度に教員から異動した職員を中心担当として企画・開発を行った。千葉県立美術館第8展示室で展覧会を開催するプロセスをグループワーク形式で追体験し、学芸員の仕事を体験的に学習できることを目的とした。また、職場体験等の一日学芸員体験実習及び出前授業の教材としての利用を想定した。プログラムの開発には千葉工業大学プロジェクトマネジメント学科加藤研究室によるグループワーク学習における最先端の理論を採り入れ、平成24年5月には、プログラムの難易度調整の為に、千葉市立磯辺第一中学校の美術部を対象としたプロトタイプによる運用実験を行い、制限時間の見直し(100分から90分へ短縮)などを行った。 ○製作：筐体については、千葉工業大学デザイン科学科松崎研究室に開発製作委託した。設計にあたっての留意点として、学校への貸出及び出張授業での使用を考慮して、普通乗用車の後部トランクに入る寸法(110 cm以内)にすること。輸送中の破損を防ぐため筐体の強度を高めることとした。また、キットの継続的な保守・改修を図る為に、当キットの開発を大学との博学連携の一環として位置づけ、委託終了後にも共同研究を継続することとし、使用による破損状況の調査及び改修を松崎研究室に担当していただいている。平成25年12月現在までの改修は、展示室模型の屋根部の耐久力強化と、カメラスライド部分の動作をスムーズにしたことの2点である。今後も、不具合等が出た場合は、原因調査と改修を実施する予定である。 ○利用：多目的利用については、使用するミニチュア作品の入れ替えや、テーマ設定の変更を行うことにより、対応の多様化を確保している。現在は、展覧会を作り上げるまでのプロセスを体験する目的の、中高生向けプログラムを1本、グループ間の交渉により作品を交換し合いながら展覧会を作り上げ、鑑賞活動をとおして参加者間のコミュニケーションを深めることを目的とした成人向けプログラムを1本整備している。今後は、抽象絵画のミニチュア作品を用いて、作品から感じるイメージが多様であることを体験することを目的とした、小学生向けのプログラムを整備する予定である。
段階評価	4.0 [4(石川・加藤・黒田・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 主旨、取り組みに同感 加藤) 博学連携が評価できる。更にコンパクトで耐久性のあるキットに仕上げ利用範囲の拡大を願いたい。 黒田) キットに関わる外部との連携が、職員個人のものではなく、館として今後も継続できるようにしてほしい。 戸枝) ミニ作品は館蔵資料の紹介も兼ねられる。利用がマンネリ化しないためにも、著名な作品も含めた作品数を増やし、様々な企画展の計画が立てられるようにしたい。 西村) 今までにない新しいアイデアで子供から大人まで楽しめ、興味の持てる学習キットである。 村井) 子供だけでなく、大学生や大人にも活用できるキット。対象を広げて利用展開をしてほしい。名称は、内容的には「バーチャル」ではないので、「学芸員に挑戦」とか「学芸員体験」のような名称に変更したほうがよいのではないかと。また、展示室模型内の人体模型は成人だけでなく、子どもと車椅子も用意したほうがさらに効果的な展示計画が立案できると思う。
対応	○共同開発者である千葉工業大学との連携については継続されるため、改良や補修については今後も継続していく予定である。 ○本教材は、一日学芸員体験や博物館学実習等の、主に来館者向けプログラムの一環として運用することを想定して開発されているが、キット単体での運用や、貸出や出張授業用のプログラムも開発し、館外等の多様な場面での運用に耐えうる教材としていきたい。 ○美術館への多彩な利用者を想定するため、各種の人体模型については、補充を進めたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	<p>○教員研修会において実物展示と実演を実施、及びキット紹介 DVD を作成して上映。</p> <p>○教員を対象とした体験実習の実施、館内での実物展示と実演。</p> <p>○パンフレット「アートで学ぼう」を作成し、県内の全小中高等学校、及び特別支援学校に配布。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修会での実物展示と実演 (H24.6.28. 千葉県造形教育研究発表大会) ・教員研修会でのキット紹介 DVD の上映 (H24.8.22. 印旛地区図工・美術研究大会) ・教員を対象とした体験実習 (H24.8.17・28. 教員2年目研修、H25.8.19.東総地区研修会) ・館内での実物展示と実演 (H24.4.24～30. 「県美知っ得 WEEK」展) ・「アートで学ぼう」の配布 (H25.6. 県内全小中高等学校、特別支援学校に配布)
段階評価	3.2 [4(加藤・戸枝)、3(黒田・西村・村井)、2(石川)]
所見・指摘	<p>石川) 広報・周知に要工夫</p> <p>加藤) 取り扱い説明書の更なる充実を願いたい。</p> <p>黒田) 開発意図とは異なるが、小中学校教育以外の場でも利用が見込める可能性もあるため、HP で作成した DVD を公開するなどを行ってもよいのではないか。</p> <p>戸枝) 利用拡大に教員の利用方法熟知が必要と思われる。機会があるたびに実演・広報につとめてほしい。</p> <p>西村) 是非もう少し広報をして、より多くの方に体験をして欲しい。</p> <p>村井) 学校での利用だけでなく、ターゲットを広げて、広報展開をしてほしい。</p>
対応	<p>○興味を引く教材である一方、取り扱いについては高度なものであり、広報や貸し出しや引き継ぎに際する取り扱い説明の工夫に努めたい。</p> <p>○25年度に公民館での講座を実施し、高齢からの要望も強いことを把握した。26年度についても25年度とは別の公民館での講座で活用する予定であり、今後も幅広い利用を目指したい。</p> <p>○HP にも詳しいキット紹介のページを設ける等、より積極的な広報活動を展開したい。</p>

③事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成>
	<p>○目標値:未設定</p> <p>○理由:学校からの随時依頼によるものであること、休館中で展示鑑賞の事前学習ができにくい。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未現在</p> <p>①貸出利用:0件 (H24 実績:0件)</p> <p>②実演・出前:3件 53 人 (H24 実績:14 件 157 人)</p>

B. 学校以外の利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成>
	<p>○目標値:未設定</p> <p>○理由:学校以外の団体への貸出利用・出前利用による実演とも年度当初には想定していない。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未現在</p> <p>①貸出利用:0件 (H24 実績:0件)</p> <p>②実演・出前:1件 22 人 (H24 実績:0件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25.9. 船橋市立丸山公民館での3日間の出前講座中に利用した。

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	<p>○学校を中心とする団体利用については、事前打ち合わせを行い、担当教諭等に対し事後アンケートによる意見聴取を行っている。</p> <p>○キットの内容、美術館の対応についての満足度はほぼ 100%良好。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教諭との事前打ち合わせを重視し、各学年・クラス等により内容・資料を調整し、授業としてのより高い成立を目指している。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	○中高生向けの一日学芸員体験、大学生向けの博物館実習、教員の研修において教材として使用

	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生向けの一日学芸員体験 8件 62人(H24) ・大学生向けの博物館実習 2件 16人(H24) ・教員研修において教材として使用 4件 46名(H24・25)
段階評価	3.3 [4(加藤・戸枝)、3(石川・黒田・西村・村井)]
所見・指摘	<p>石川) 体験者を増加させたい</p> <p>加藤) 社会人の創作活動が拡大しているので、公民館等での利用拡大にも努めていただきたい。</p> <p>黒田) 躯体がやや大きいこと、PCの接続が必要なことなどから、教員一人ですべて借り出して使用するには少しハードルが高いと感じられるのではないかと思います。</p> <p>西村) 学校、それ以外に対しても今後実績は構築できるであろう。</p> <p>村井) 学生・大人にもターゲットを広げて利用促進を。その方が、利用実態に即していると言える。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館での美術講座をはじめとして新たな利用の道を広げて行きたい。 ○どのような教員やファシリテーターでも気軽に教材として活用できるプログラムとはなっていないが、取り扱い説明を工夫したり、研修での実演につとめることで、幅の広い利用を進めたい。 ○再開館後は、一般を対象とした博物館実習的な内容の講座等を開講し、その中で当キットを活用する等、学生以外も対象とした活用を積極的に設けていきたい。
総合評価	3.3 4(加藤・戸枝)、3(石川・黒田・西村・村井)
評価内容	<p>石川) 改善しながら継続すべき。結果及び評価は早計と感ずる。</p> <p>加藤) 創意工夫に富んだキットである。絵画の縮尺については統一すべきではないか。</p> <p>黒田) 開発段階からの外部との連携が取れていることも含め、良いものであることは理解できた。小中学校以外の、例えば大学の学芸員養成課程の授業や、地域の文化サークルなどでの利用も見込めるキットであると思う。このため、たとえば、学会等(美術教育学会、博物館学会等)でのキット実績の発表、HPでの具体的な利用例の公開などを通して、広く周知を図ってもよいのではないかと。また、使用される美術作品のプレートは実際の縮尺とは異なるとのことだが、実際の縮尺に合わせたプレートのセットも増やし、学習目的に合わせて使い分けるなどをしてよいのではないかと。</p> <p>戸枝) 県立美術館の見学利用だけでなく、美術館(学芸員)の仕事のプロセスの一端を紹介する役割をもつキットである。現在は絵画(平面)資料だけだが、将来的に3Dプリンタ等を用いた立体物展示の構想も検討してもよいのではないかと。(縮尺が問題か)</p> <p>西村) ゲーム感覚で学芸員の体験もできる大変良い学習キットができた。</p> <p>村井) 質の高い学習・体験・スキルアップが可能なキットだと言える。今後は、学校にターゲットを絞らず、利用拡大を検討してほしい。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ○絵画の縮尺については、開発時に様々な試作による検討を重ねたが、統一することは難しかった。今後のキット開発の際には、同じような縮尺の絵画セットを作るなど改良をおこないたい。 ○当キットは、プログラムを入れ替える事で多様な年齢層、学習内容に対応できる可能性を持っているが、新たなプログラムの開発や付属品を設置するためには、今後予算の確保等が必要である。学習効果を内外に周知し、キットの可能性を十分に発揮できるだけの予算の確保に努めたい。

館名：美術館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「ビルダーカード」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：平成10年12月に告示された現行学習指導要領において美術館の積極的利用が示されたことを受け、来館した児童・生徒向けの創作体験用教材として平成12年に開発した。 ○製作：製作上の当初の工夫は、大判のものを作製することで、子どもたちが簡易に大型のオブジェを作製できるようにすることであった。この点では子どもたちが体力を使い、共同して大きな造形ができるなどは、当初の目的に沿うものと考えられる。なお、改良点としては平成24年度制作分から防水及び折れ曲げ防止の為に表面をシート加工したことなどがある。 ○利用：図画工作科における造形遊びでの使用。主に館主催のワークショップや被災地での復興支援活動において活用してきたが、平成24年度末に学校教員からの要望により、貸出用学習キットに編入した。このため、総合的な学習の時間における被災地理解のための体験用教材としての使用も想定している。

段階評価	3.3 [4(加藤・黒田・戸枝・西村)、3(石川・村井)]
所見・指摘	加藤) 簡易な創作体験教材として優れている。 戸枝) カードの破損も多いと思うので、速やかな補充が必要である。また、セットの中に色違いのカードを用意してもよいのではないだろうか。 西村) 安全で安心して自由な発想で、大きな作品を製作する事ができる。 村井) 使い方を限定しないツールの特徴を生かし、広く県民が活用できる造形表現ツールとして活用してほしい。そのためには学習キットではなく、たとえば「造形表現キット」などの表現にしてもいいのではないかと。
対応	○カードの開発については、当館のキットをベースにして日本赤十字社千葉県支部が新たなデザインのキットを3パターン開発し、NHK 千葉放送局も1パターン開発するなど、千葉みなど地域共有の造形表現キットとして定着しつつあると考えられる。このため、それぞれが保有しているカードを貸し借りすることによって、数量の調整や色数の調整を行うなどの柔軟な運用を行う事が出来ている。今後もこの協力体制を維持しつつ、さらに活用の場を広げていきたい。 ○今後も、当館主催のワークショップはもちろん、地域のイベント等でも積極的に活用し、広く県民が活用できるように努力していきたい。 ○被災地支援で活用した実績のある教材なので、被災地理解や安全教育の分野でも広報し、活用していく予定である。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○教員研修会において実物展示と実演を実施。 ○ビルダーカードを使用した被災地理解プログラムのチラシ配布。 ○学習キットのパンフレットを作成して県内の全小中高等学校、及び特別支援学校に配布。 ・教員研修会での実物展示と実演(H25.11.22 千葉県造形教育研究発表大会にて) ・ビルダーカードを使用した被災地理解プログラムのチラシ配布(H25.11.22 千葉県造形教育研究発表大会にて) ・学習キットパンフレットの配布(H25.6. 県内全小中高等学校、特別支援学校に配布)

段階評価	3.5 [4(加藤・黒田・戸枝)、3(石川・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 教員への働きかけを工夫したい 加藤) 更なる利用促進に繋がるよう、作品紹介などのホームページ等での露出に努めていただきたい。 黒田) HP での利用状況の公開なども周知に役立つのではないかと 戸枝) 主に小学生に人気があると思われるが、幼稚園なども主な対象に考えられないだろうか。 西村) 平成12年に開発された割にはあまり知られておらず、今後活発な活用が見込まれる。 村井) 地域イベントや学校行事、児童館、福祉施設など広範囲でも使えるツールなので、そうした観点からも利用促進の広報活動は必要ではないか。
対応	○美術系教員の研修会で広報をおこなっているため、図画・工作の授業として取り入れられている。今後も年度ごとの効率的な広報をおこなっていききたい。 ○本年度は新聞記事でも多く取り上げられたため、保育施設等からの問い合わせも数件あったが、実施には至っていない。 ○屋内で、かつ短時間で、頭と体と創造力を駆使することのできる教材であるので、HP 上でも利点を紹介するなどして、学校以外の施設・団体へも周知を図っていききたい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:未設定 ○理由:学校からの随時依頼によるものであること、休館中で学校団体の来館が見込めないため。
実績・内容	H25.11.未現在 ①貸出利用:2件 194 人 (H24 実績:2件 1,098 人) ②実演・出前:3件 135 人 (H24 実績:0件) ・H25.9 夢つくり隊(福島県相馬市):小学校の授業でのワークショップ (1件(3学年)100 人) (*日赤制作分・現地に寄贈)

B. 学校以外の利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:未設定 ○理由:学校以外の団体への貸出・出前による実演とも年度当初には目標値を設定していない。
実績・内容	H25.11.未現在 ①貸出利用:1件 45 人 (H24 実績:0件) ・H25.11. 日本赤十字社千葉県支部の研修用教材として貸出 ②実演・出前:3件 165 人 (H24 実績:2件 200 人) ・H25.7. NHK 千葉放送局、及び日本赤十字社千葉県支部の職員向けに実演 ・H25.8. 夢つくり隊(福島県いわき市)社会教育施設で被災地支援ワークショップ(*日赤制作分・現地に寄贈) ・H25.9. NHK 千葉放送局主催イベントでのワークショップ (*NHK 制作分)

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	○学校を中心とする団体利用については、事前打合せを行い、担当教員等に対し事後アンケートによる意見聴取を行っている。 ○キットの内容、美術館の対応についての満足度はほぼ 100%良好との結果を得ている。 ・教諭との事前打合せを重視し、児童・生徒の実態に即した授業の成立を目指している。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	○実績:館主催のワークショップにおける教材として使用。 ・H22:館内ワークショップ「県民の日・その場でアート」 1件 64 人 ・H23:館内ワークショップ「ワクワク色いろ・創作アート」 1件 81 人 ・H24:館内ワークショップ「いろいろ・創作アート」 1件 83 人 ・H24:館外展示「東日本大震災記録写真展Ⅱ」(千葉ポートタワー) 1件 10,951 人 *被災地で実施したワークショップ用教材として実演と展示を実施。 ・H25:ワークショップ「いろいろ作ろう、美術館の縁日だよ!」(さわやかちば県民プラザ) 1件 76 人

段階評価	3.7 [4(加藤・黒田・戸枝・西村・村井)、2(石川)]
所見・指摘	加藤) イベント型から汎用型への切り替えも合わせて進めていただきたい。 戸枝) 引き続き広報に努めてほしい。 西村) 大変努力された事が理解できる。 村井) 休館中である時期に、アウトリーチ活動のツールとして、被災地支援など多角的な活動を展開したことは評価したい。ただし、目標値を定めるべきであったと思う。
対 応	○館独自の大型の教材であることから、本来広い施設で大量のカードを使用するため、イベント型の利用は多いことはいなめないが、それに限らず、汎用としての活用にも十分対応できる教材であると考えている。 ○広報、周知を進めるとともに次年度は、今年度の実績などから検討して、目標値を設定したい。
総合評価	3.6 4(加藤・戸枝・西村)、3(石川・村井)
評価内容	石川) 周知されるまで今少し辛抱すべき。 加藤) 縮小版を作成することで、幼稚園や保育園での活用も期待できるのではないかと。 黒田) 術館の掲げる「みる・かたる・つくる」に合致した良いキットであると思う。現在も行っているような、共催者の出資によってデザインを変えるなど柔軟に対応できる素材であることも良い点であると思う。カードごとに色分けしたものを作るなどで、創作の幅も広がるのではないかと。 戸枝) 被災地プログラムはマスコミ数社に取り上げられ、被災児童に好評であったとのこと、また授業等でも活用されており、美術館・ビルダーカードの知名度も上がっている。 西村) 色や形を変えれば何通りにも造形でき、大変素晴らしいキットである。 村井) 来年度も改修工事のため休館となることから、来年度のアウトリーチ活動のツールとして多角的に利用していくことを期待して、4に近い3とする。
対 応	○今後も広報をすすめ周知を図りたい。造形活動を主としているためデザインに工夫を凝らしてきたが、今後「色」についても検討を継続していきたい。 ○ボランティアへの研修等でも使用することによって、年齢の高い層での活用の方法も探していきたい。 ○日本赤十字社千葉県支部が開発した最新版では、直径10センチの円盤にも切り込みを入れた為、縮小版としても活用可能である。また、当館は1辺センチの正方形のビルダーカードも多数保有しているので、小型版の依頼があった時にも柔軟に対応していきたい。 ○大型の円盤型のビルダーカードは、スリット同士を組み合わせる際には手先を活用するので、リハビリ等で活用できる可能性があると思われる。また、屋内でもダイナミックな造形活動を展開できるので、院内学級等でも効果的な教材になり得ると考えている。しかし、医療・福祉の分野における運用は、利用者の実態に合わせて個別の対応が求められる為、専門家や教諭と時間をかけて慎重に調査・研究を進めていきたい。

館名：中央博物館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「生命と大地の歴史を体感する化石キット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画： ・出前授業で、県内の学校を訪れた際、理科室の化石標本がきちんと管理されていない例を見聞きした。学校は、担当教諭の異動が多く、継続的に標本を維持管理することが困難な場合もある。そのため、博物館が教材用の標本を貸し出し管理することは、効果的であり、意義がある。 ・中央博物館は、地質・古生物系の学芸員を擁する県内唯一の博物館であり、専門家の目から見た教材用の化石をラインナップすることができる。 ・教科書等の内容に配慮しつつも、up to date で発展性のあるテーマ設定ができる。 ・豊富な教育普及用標本のバックアップがあり、指導目的に合わせた標本の入れ替えも可能。 ○製作： ・基本セットは、18種の化石で構成され、3～5人のグループで1セットを観察するものとした。 ・ある程度大型で見栄えのする1点だけの標本4種からなる発展セットも用意した。テーマとしては、肉食恐竜から鳥への進化をイメージできるものになっていて、理科室や公民館での展示なども想定したものである。 ・それぞれに、解説書を用意した。 ・ラインナップの決定にあたっては、現役及び退職した小中学校理科教師の意見を聴取した。 ・キットは、丈夫な内箱と外箱の二重構造で、搬送・配送可能な大きさに収めるようにした。稀少だが、セットに盛り込みたい化石は、実物標本から型どり・着色した、自作の石膏模型を採用した。
段階評価	4.0 [4(石川・加藤・黒田・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 体験者が関心をもつ工夫が良い(教材・手の感触など) 加藤) 「古生物学への誘い」への好企画。 戸枝) 実物の化石、精巧なレプリカ、解説書、バックアップ資料の存在など充実している 西村) 種類もあり、実物にも触れることができ、大変利用しやすい学習キットである。 村井) 千葉県産の化石をあることによって、身近な視点から地球と生命の歴史を学ぶことができる点を評価した。また、自作で石膏模型を制作できる技量も評価の対象とした。
対応	○構成内容やセット数、取り回しの改善など、今後ともキットの充実に努めたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○方法： ①中央博活用研究会や教員研修における実演 ・教育普及課職員が、県下の小中学校教諭を対象に実施している中央博活用研究会においてキットを紹介・実演し、キットを利用した授業や、博物館学習を提案している。また、市町村中学校教員理科部会でも実演し、周知をはかっている。 ②ウェブサイトでの紹介 ・ウェブサイトに、キットの内容を詳細に掲載している。インターネット上での検索から問い合わせが寄せられる事がある。 ③雑誌「初等理科教育」での紹介(H24) ・教育雑誌に紹介記事を寄稿した。

段階評価	3.3 [4(加藤・黒田)、3(石川・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 自信をもって広報されたい。 加藤) 中央博の企画展等でも随時体験教室を実施し、PRに努めていただきたい。 戸枝) 利用拡大のため、広報に努めてほしい。 西村) 広報にもう少し注力すれば、広報の効果が得られると思われる。 村井) 教員の方々にキットを有効に活用してもらうためには、学芸員の出張講座を公開し(モデル授業)、キットの使い方、解説などの見本を示すとよいと思う。その結果をマニュアルづくりに生かし、教員が専門的な内容でもわかりやすく解説でき、生徒が楽しく学習できるような工夫が必要。
対応	○広報、PRについては、パンフレットを製作するなどして、博物館を利用する教員や団体などに配布することを検討する。 ○体験教室については、例えば「化石キットで学ぶ地球の歴史」などといったタイトルで、次年度以降、館行事としての実施を企画する。 ○教員への普及、啓発については、解説DVDの製作を検討中である。また、公開モデル授業は有効と思われるので、千葉県総合教育センター等にも話を聞き、実施の機会を見出したい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:明確な数値目標として掲げていないが、5校程度(貸出:4校、出前・実演:1校程度)。 ○理由:本キットは、教科書に即して最も教育効果が期待されるのが、中学校1年の第2分野「大地の成り立ちと変化」である。この項目はカリキュラム上、多くの学校で中学1年の12月頃から翌年2月ごろに学習する。このように時期が決まっているので、授業での利用に、同時に多くの学校から依頼があっても応えられないことから、5校程度が適当と判断した。出前授業に関しては、生徒の反応やそれぞれの標本に対する関心の度合い、理解度などが実際に見られるので、年1回の実施があるとよいと考えている。
実績・内容	H25.12.未現在 ①貸出利用:3件 222人(H24 実績:0件) ・全て県内の中学校。また、前述の理由により、年明け後の利用が見込まれる。 ②実演・出前:0件(H24 実績:0件) ・ただし、平成26年1月に県内の中学校で3クラスの授業実施予定がある。 ●達成率:件数60% [指標未達成/ただし、年度末には達成見込み] ●理由:上記理由により現時点では未達成だが、年度末には達成できる。

B. 学校以外の利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:5件(貸出利用:2件、出前・実演:3件) ○理由:キット所収の化石は、単体としてみても興味深く、重要な標本がいくつも含まれているので、さまざまな連携活動や、博物館行事に利用可能である。
実績・内容	H25.12.未現在 ①貸出利用:1件(H24 実績:0件) ②実演・出前:4件(H24 実績:4件) ・教員研修や、博物館実習での利用。キットのウェブサイトを参照して、他県の教育機関や、テレビ製作会社から貸し出し依頼が入ることがある。 ●達成率:件数100% [指標達成] ●理由:目標値での内訳は異なるが、総数では達成している。

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか。>
実績・内容	○方法:アンケートによる ○対象:貸出先学校の教員、出前授業の参加者(小学生) ○結果:教員対象アンケートでは、セット数が足りないという学校現場からの要望があったので、平成26年度に向け、基本セット追加のための予算要求をしている。内容や使い勝手、博物館側の支援などについては、概ね高い評価を受けている。小学生対象のアンケートでは、アンモナイト、虫入りコハク、デスマスチルス臼歯、三葉虫などの関心が高かった。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	〈貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか〉
実績・内容	○内容:博物館の行事や研修で、特定の標本を抜き出して使うことがある。同じ標本が複数あるので、ある程度の人数を相手にするイベントでは使いやすい。また、体験交流員が土日に実施する子供向けイベント「すまいるキッズ」で、キットの化石標本を活用することになり、現在準備中である。 ○実績:博物館実習出の演示1件(20人)、化石の模型作り講座での教材(38人)、サイエンスイベントで一部を展示(140人)
段階評価	3.8 [4(加藤・黒田・戸枝・西村)、3(石川)]
所見・指摘	石川) 継続あるのみ 加藤) 貸出先学校の教員等との知見の共有に更に努めていただきたい。 戸枝) 各種イベントで使用することで、館蔵化石資料の紹介と、リピーターの確保が期待できる。 西村) 利用範囲と利用者年齢層も幅広く活用できそうである。 村井)
対応	○現状でもアンケートは実施しているが、貸与を受けた教師(学校)からは、どうしても好意的なコメントが主体の回答が帰って来る。今後は、アンケートとともに教員とのコミュニケーションを密にし、些細なことでも不満点や改善点、気がついた点などを聞き取るように努めたい。また、貸し出した場合の、実際の授業の流れ、キットの利用方法、使用標本についても調査を行い(アンケートへの盛り込みもしくは聞き取り)、キットの充実及びマニュアルの改善に役立てたい。 ○イベント等での活用については、館内で体験交流員(嘱託職員)が実施するプログラム事業で活用してもらえよう、担当者への情報提供と活用方法の指導に努めたい。また、出前展示等でも積極的に活用し、その場を介して貸出可能標本であることをアピールするとともに、次年度以降、展示用として見栄えのする標本を加えた発展セットの整備も検討していきたい。
総合評価	3.6 [4(加藤・黒田・戸枝・西村)、3(石川・村井)]
評価内容	石川) 満足度も高く、興味・関心を呼ぶ優良な企画であり、好結果を期待する。 加藤) ハンズオンに徹し、「破損したら直せば良い」という姿勢は高く評価できる。 黒田) 開発動機と学習キットの必要性が合致した良いものであると思う。今後も、セットを増やす、中身を入れ替えるなど、利用者の要望に沿った改善をしてほしい。 戸枝) 教科書や図鑑では見るが、実物を見るまたは触れる機会は少ない。実物教育・教材としてもよいキットである。また、レプリカも精巧である。 西村) 持ち運びもでき、今後更なる活用の頻度が増えることが期待できそうである。 村井) キット数が足りないため、需要に対して供給が追いついていない。来年度の実績に期待して、4に近い3とする。グラフィックとキットの化石がリンクしていないのが残念。キット内容に沿うグラフィックを作成することが好ましい。
対応	○基本セットについては、セット数を増やす方向で、次年度の予算要求に盛り込んでいる。それでも対応できないレベルに利用希望が増加するようであれば、標本点数を絞ってコンパクトな構成にしたセットを大幅に増やし、同時に複数校に対応できるようキット内容を改めることも検討していく。 ○現状の復元画は、個人的なついでで既存作品を無償で使わせてもらっている。古生物復元画(とくに絶滅生物の場合)の新規制作は、高度な専門知識と長い時間が要求されるため、予算的にも簡単ではなく、指摘の点については、利用可能な既存の復元画等を探す方向で考えてみたい。 ○今後とも、利用者のニーズに一層配慮したキットの改善と運用を心がけていきたい。

館名：中央博物館（大多喜城分館）

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「甲冑・小袖・袴試着体験キット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：当館は「房総の城と城下町」を主テーマとし、武器・武具・調度品・古文書等の資料を収集、展示を行っている。中でも武器・武具は展示の中心となる資料である。また、当館の普及事業「甲冑等の試着体験」は人気の高い事業であり、定員以上の参加者がある。そこで学習キットとして複製甲冑等を作製、整備して、多くの学校団体等に試着体験させることで、武士の時代をより身近に感じることができ、歴史に興味関心が高まると考えた。さらにボランティアを募集し、団体への対応と時代考証を踏まえた着付けができるように研修を実施した。 ○製作：試着体験の対象を小学生から一般とした。小袖や袴の素材は耐久性やメンテナンスを考慮して生地を化繊とした。小学校低学年の利用を考え、子供用の学習キットも製作した。

段階評価	3.8 [4(加藤・黒田・戸枝・西村)、3(村井)]
所見・指摘	加藤) 展示に合わせてのキット製作は評価できる。 戸枝) キットと共に江戸期の絵画等も準備し、姿・形を確認するような工夫を検討してほしい。着装にはボランティアの協力が不可欠であり、さらなる連携とボランティアの増を図ってほしい。また、キットのメンテナンス(糊付け・アイロンがけなど衛生面の配慮)も大切である。化繊と本物の違いや鎧や刀の重量など、タイミング良く教える必要がある。 西村) ボランティアの活用を含め、博物館を身近に感ずる大変効果的な学習キットである。 村井) 装束を着ることは楽しい行為だが、それだけでは学習効果はあがらない。歴史や生活文化の観点からのアプローチが不足していると思う。
対応	○学習キットの実際の運用に際しては、展示見学(なるべく学芸員の解説を付ける)とセットで実施し、展示解説の中で甲冑や刀剣について触れることにしている。また、小袖試着を希望する団体には当館保管の「江戸風俗図屏風(複製：菱川師宣筆)」を用いて着物の変遷など解説している。今後、屏風の小袖が描かれている場面を写真パネルにして試着時に確認、解説できるような工夫も行いたい。 ○学習キットの幅広い活用はボランティアなしでは成り立たない。今後とも、勉強会を含めた研修を実施しながら、育成と増員を図りたい。 ○本キットの最大の課題はメンテナンスである。これまで、運用毎に職員とボランティアによるこまめなメンテナンスを心掛けてきたが、今年度、利用者が1,500名を超え、傷みが激しくなってきた。今後は、外部の専門家によるメンテナンスも行えるよう、予算要求を行っていきたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	○出前授業「甲冑・小袖・袴の試着体験」チラシを作製、裏面を申込書とし、手続の簡素化を図る。 ○大多喜町内全小中学校に学習キットを活用した歴史教室の利用を勧める。 ○小中学校への利用促進のため、周辺の小学校に直接出向き、学習キットの活用方法を説明する。
実績・内容	○方法： ・大多喜町教育委員会に協力依頼し、教育長が各学校長に活用を勧めた。 ・大多喜町内小中学校及び周辺小学校を訪問し、出前授業のチラシを配布するとともにその内容を説明した。 ○時期：4月～10月(大多喜町立小中学校は4月、その他は随時実施)

段階評価	3.6 [4(加藤・黒田・戸枝・西村)、3(石川・村井)]
所見・指摘	石川) 大多喜城の広報にも寄与する好企画である。 加藤) 地元教育員会と連携した広報は効果を挙げている。他の自治体とも同様の連携を図りたい。 黒田) 地域での広報としては申し分ないが、ロコミなどで県外の学校の利用があったことを考えれば、HPでの情報公開をもう少ししてもよいかもしれない。 戸枝) 地域だけでなく全県的にPRしたい。 西村) 大多喜町は地元であるにも関わらず、まだまだ開拓の余地が残されている。 村井) 目標は達成できていると思うが、今後は、県域全体に広報活動をすべき。県民との資産として活用できるよう、広報活動を展開すべき。
対応	○職員数の問題から、対応には限界があり、現状の広報による運用だけで手一杯の状態にある。このため、HPでの積極的な情報公開や全県的なPRは、控えている。今後、本館からの協力やボランティアの充実が進めば、徐々に、情報発信についても拡大を検討していきたい。ただし、利用拡大だけに目を奪われると、単なるイベント使用となる可能性があるため、学習キットの狙いを逸脱せぬよう十分な配慮の下に運用を心掛けていきたい。 ○大多喜町内の学校は、町の「お城まつり」で甲冑(紙製)の試着体験があるので、これまで館での試着体験の要望が少なかった。今後は、「江戸風俗図屏風(複製)」を活用するなど、社会背景等も合わせて学べる博物館独自の新鮮味のある試着体験を提案して、利用の促進を図っていきたい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績(学校団体の利用実績)

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:①未設定、②実演・出前利用:H25 目標値:16件 440人 ○理由:①は着付けの作法や技術の問題もあり、十分検討してから実施することにしたため。②は件数、人数とも昨年利用実績値(14件 399人)の約10%増を目指す。
実績・内容	H25.12.末現在 ①貸出利用:0件(H24 実績:0件) ②実演・出前:20件 938人 (H24 実績:11件 219人) ●達成率:件数 125%(人数 213%) [指標達成] ●理由:新規利用校が6校増えた。例えば目黒区教育委員会は管内小学校の校外学習先の一つに当館を加え、学習キットの利用をメニューに入れ、4校 261名が学習キットを利用した歴史教室を実施した。県内では、私立中学校1学年4クラス 352人が4期に分かれて来館し、学習キットの試着体験学習を実施した。目黒区の小学校の場合、体験した学校からのロコミ情報で活用する学校が増えた。なお、多くの人数を受け入れて体験学習ができるようになったのはボランティアを育成したことによる効果が大きい。学習キットの貸出依頼は2件あったが、学校との調整がつかず、未実施。貸出での活用が今後の課題である。

B. 学校以外の団体利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値:①貸出利用:1件 20人、②実演・出前利用:8件 200人 ○理由:①は昨年度と同程度、②は昨年度(7件 174人)の約10%増とした。
実績・内容	H25.12.末現在 ①貸出利用:1件 57人 (H24 実績:2件 21人) ②実演・出前:10件 271人 (H24 実績:7件 174人) ●達成率 ①件数 100%(人数 285%)、②件数 125%(人数 135%) [指標達成] ●理由:①は博物館施設に普及事業での活用として貸し出している。②の団体は学習キットの利用を目的として来館している。また、近年、自治体の利用も増えている。これは、国際交流事業の一環で学習キットの利用を通して日本文化の理解に役立てようとしている。H25に学習キットを利用した自治体は、千葉県、市川市、大多喜町、御宿町、茂原市などである。

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	○方法:学習キット利用時の声 ○対象:学校団体及び一般利用者 ○結果:大多喜城主本多忠勝の甲冑や女性の体験用キット(小袖)、正装の装束(袴)を製作した。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	○種類・実績 ①当館普及事業「甲冑・小袖・袴の試着体験」:3件 119人(H24実績:3件134人) ②大多喜町との連携事業「甲冑・小袖・袴の試着体験」:1件29人(H24実績:1件15人) ③ボランティア研修:2回17人(H24実績:1件6人) ④PR活動での利用(展示):1件75人
段階評価	3.6 [4(加藤・戸枝・西村・村井)、3(石川・黒田)]
所見・指摘	石川) 広範な体験者で、広報面にも寄与させたい。 加藤) 少ない職員数の中での利用拡大は評価できる。 黒田) 利用者意見が実際どうなのか、教員に聴き取りを行うなどして行ったほうがよいのではないか(現在のものではよくわからない) 戸枝) 都内の学校が利用しており、口コミでの利用拡大も期待できる。 西村) 良く努力され、交通の便が必ずしも良くない地理的条件であっても利用者増に連なっている。 村井) ボランティアの協力体制も整備し、利用実績をあげたことは評価したい。初年度の利用実績から、来年度以降の利用ターゲットを検討することも必要だと思う。また、内容面から、貸出は、博物館施設を中心にすべきだと思う。理由は、学校に貸し出しても現状は試着にとどまってしまう可能性があるから。博物館施設の場合は、解説できる学芸員がいるため、キットを有効活用できるから。出張・実現向きのキットだと思うので、イベント加なども含めて地域貢献できるツールだと思う。このキットは、関宿城博物館、房総のむらでも活用できると思う。
対応	○利用者意見については、恒常的に、体験後に聴取している。また、後日送付される児童からの感想文や体験校のHP等に掲載された体験風景やコメントも、事業(運用)改善の参考としている。学習キットの利用改善、促進を図るには、観点(ターゲット)を明確にすることが必要と考えており、今後、この点を踏まえた事後評価を体験校(団体)にお願いする取り組みについても検討している。 ○本キットは、性格上、運用には博物館職員の関与が不可欠と考えている。貸出しについても、その点を考慮した運用を図っていく。1月に小学校から甲冑の貸し出し依頼があった際には、職員が学校に直接出向き、梱包・取扱・試着の仕方などを教員と児童に解説し、その上で利用してもらった。 ○他館での運用については、大根分館において既に実施しており、関宿城博物館とは、新たな連携が可能と思われる。なお、房総のむらは、独自の試着キットを有しており、そちらを運用している。
総合評価	3.5 [4(加藤・黒田・戸枝)、3(石川・西村・村井)]
評価内容	石川) 体験者数が限定される、ボランティアの支援が必要等の点はあるが、定着させた方が効果的ともいえる。 加藤) ボランティアの組織化が評価できる。 黒田) 館を訪れた全員が体験できるキットであることが素晴らしいが、なによりボランティアの継続的な育成が重要となる。今後もその育成に力を注いでほしい。また、貸出前に研修を設けるなど、館外への貸し出しに対応できる策を考える必要がある。 戸枝) 複製としても非常によくできている。現在の戦国末～江戸初期のものだけでなく、できれば江戸期のもののようなもう少し簡略なキットも準備できれば、更なる利用拡大につながるのではないだろうか。また、キットの移動やボランティアの手配が必要だが、小袖や袴については房総のむらや関宿城博物館での利用も検討されたい。 西村) 大多喜町とその近隣の小中学校に利用を促すべきである。 村井) このキットに合う利用形態を考えるべき。学校向けの学習キットと決めつけず、県民が利活用できるツール・資産としてどう活用していくかを検討すべきだと思う。
対応	○学習キットが合同企画事業と取り上げられたことにより、キットの種類が増え、活用方法、利用者の拡大が図られた。今後も、予算処置が続く間は、新たなキットの製作に取り組みたい。また、事業終了後も、既存キットについては、維持管理の予算を確保する努力をし、引き続き運用して行きたい。 ○利用者拡大の背景は、ボランティアの導入により受け入れ体制が整ったことによる。今後ともボランティア研修などを実施し、更なる育成と活動の定着を図りたい。 ○貸し出しに際しての事前研修については、本館の「校庭の野草観察キット」などの事例を参考に、今後、検討していきたい。 ○他館へのキットの貸し出しについては、自館での運用予定も踏まえ、調整して協力していきたい。 ○近隣地域への普及は十分ではなく、市町村教育委員会に協力を仰ぎながら、本事業が十分周知されるように今後も努力したい。 ○本キットは、これまでも当館の普及事業でも活用しており、幅広い年齢の方に提供している。今後も、学校利用に限定することなく、自治体やNPOの国際交流事業、青少年育成事業、生涯学習団体の利用など県民の資産、学習ツールとして活用を図っていきたい。

館名：中央博物館（分館海の博物館）

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「磯観察キット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：海の自然と生きものに特化した博物館として、野外実習授業や団体フィールドトリップ等、毎年数多くの団体から磯観察の指導を依頼され、対応している。ただし、限られた人数の館職員での対応には限界があることから、教員対象の研修を行い磯観察の指導ができる人材の育成に努めてきた。そこで、多くの指導者に活用してもらうための支援教材として、学校または社会教育関係団体に貸し出す磯観察キットを製作することとした。 ○製作： ・学校の1～2クラスが同時に使用する場合でも対応できる数量を可搬コンテナに収納し、乗用車等での運搬にも対応できるものとした。 ・製作に当たっては、観察会実施の際に教員から寄せられた意見を参考に、小学校低学年にも扱えるよう、軽量で安全にも配慮した材料を使用した。 ・内容は、手網・バケツ・観察用容器等の用具及び、磯観察会を企画・実施するのに役立つ「海の生きもの観察会 実施マニュアル」、生きもの名前などを調べるのに便利な「海の生きもの観察ノート」9種類。用具等については、海水による腐食や破損があるので、適宜補充できるものとした。 ○利用：貸出利用のほか、必要に応じて館職員による磯観察指導にも活用できるものとなっている。

段階評価	4.0 [4(石川・加藤・黒田・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 事故にも配慮されており、立地的にも重要な事業である。 加藤) 館内展示を体感させるキットで評価できる。 戸枝) キットは児童生徒が採集・観察しやすいように工夫されており、運搬の利便にも配慮されている。 西村) 生物観察のキットであり、磯がフィールドであるので十分な学習キットである。 村井) 長年実施している磯の観察プログラムから派生した学習キット。館事業でも使用するが貸出にも対応できるようにアレンジしたもので完成度も高い。
対応	○今後もより利用効果の高いキットになるよう改善に努めていきたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施> ○各教育委員会、校長・教頭会等の研修や視察の機会に、キットの概要を紹介する。 ○ウェブページでキットの内容や申し込み方法を広報し、広く県民に周知する。
実績・内容	○方法：各教育委員会、校長・教頭会等の研修や視察の機会に、磯観察を行うことができる潮位や安全面での配慮事項などを研究員から説明している。その際に、効果的な観察を行うことができる磯観察キットを紹介している。 ○時期：各視察団体、研修団体に対して適宜行った。ウェブページでは年間を通して広報している。

段階評価	3.6 [4(加藤・黒田・戸枝・村井)、3(石川・西村)]
所見・指摘	加藤) ウェブページでの紹介を更に充実願いたい。対応が難しければ、管理者が改良すべきではないか。 黒田) ウェブページでの広報について、もう少し利用状況がわかると想像がしやすいのではないかと 戸枝) 臨海学校等で当該地域を利用する県内外の学校・社教団体等を把握し、これらに対する広報の方法等を考えてほしい。 西村) 限られた磯と限られた季節であるので、より多くの人目に触れるよう広報を継続努力する。 村井) 県域全体への広報活動として、出張講座を実施し、近隣の教員にモデル事業として見学してもらう機会を設けることも検討してほしい。

対 応	<p>○ホームページでの広報については、利用の様子等の画像を入れ込み、充実を図りたい。</p> <p>○周辺に所在する臨海学校施設へは、例年、事業計画等を配付してきたが、今後は、キット利用を促すチラシ等も併せて配付し、本事業の普及を図っていききたい。</p> <p>○教員対象の研修は、毎年、博物館を会場に館が主催するものと県総合教育センターが主催するものを実施しており(募集は県下全域)、その際にキットを PR するとともに活用している。出張講座については、磯場を会場とする夏季においては、季節柄繁忙期とも重なるので今後検討していききたい。</p>
-----	---

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用:15 件 300 人、②実演・出前利用:5 件 100 人</p> <p>○理由:目標値設定理由:磯観察に適した潮位の日数は年間 60 日程度である。そのうち学校の利用が多い平日は 40 日程度であり、貸出のための移動・メンテナンスを考慮し、貸出・出前を合わせて年間 20 件を目標とした。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未現在</p> <p>①貸出利用:11 件 398 人 (H24 実績:13 件 504 人)</p> <p>②実演・出前:8 件 461 人 (H24 実績:7 件 495 人)</p> <p>●達成率 件数 95.0%(人数 249%) [指標未達成/ただし、年度末には達成見込み]</p> <p>●理由:ただし、件数については、昼間に観察ができる2~3月に更なる申し込みが予想されるので、年度末までには目標の達成が予想できる。</p>

B. 学校以外の実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:貸出利用:25 件 500 人</p> <p>○理由:磯観察に適した潮位の日数は年間 60 日程度である。そのうち学校以外の団体による利用が多い休日は 20 日程度である。夏休みの利用も含め年間 25 件を目標とした。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未現在</p> <p>①貸出利用:36 件 724 人 (H24 実績:25 件 545 人)</p> <p>●達成率 件数 144.0%(人数 144.0%) [指標達成]</p> <p>●その理由: 1日に複数件貸し出す日もあり、より多くの団体に利用してもらうことができた。</p>

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者意見を聴取し、キットの改善や開発に役立てているか>
実績・内容	<p>○方法:返却時に代表者への聞き取りを行っている。貸し出しと同時に当館研究員が講師を行う場合には、使用状況やキットの安全性・扱いやすさを確認している。</p> <p>○対象:利用団体の代表者</p> <p>○結果:概ね好評である。採集用の手網については、金属部の腐食による破損や網の破れが想定以上に発生したため、予備の網を用意するようにした。</p>

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	<p>○内容:総合教育センターでの展示紹介</p> <p>○実績:平成 23 年度に総合教育センターで展示紹介を行った。</p>

段階評価	3.8 [4(加藤・黒田・戸枝・西村・村井)、3(石川)]
所見・指摘	<p>加藤) 少ない職員数の中で実績を重ねていることは評価できる。</p> <p>戸枝) このキットは消耗品と考えるべき。良い状態で使用してもらうことが利用率を高め、拡大することにつながるため、メンテナンスや補充などを速やかに行う必要がある。</p> <p>村井) 海の博物館ではあるが、「磯観察キット」のアレンジとして、海に面していない地域の学校でも活用できるよう、池・川・湖・ビオトープなどでも活用できるキットの開発の検討してほしい。県域全体へ提供できるキットを開発していこうとする取組も必要ではないだろうか。</p>
対 応	<p>○キットは、本年度予算において抜本的なメンテナンスを施した。今後も良好な使用環境を維持するため、必要に応じた処置を講じていきたい。</p> <p>○池・川・湖など、海磯以外の水場での利用については、今後検討したい。</p>

総合評価	3.8 4(加藤・黒田・戸枝・西村・村井)、3(石川)
評価内容	<p>石川) 立地的にも、海の博物館の広報の面からみても重要な事業であり、継続すべきである。</p> <p>加藤) キットの搬送について民間の配送業者との連携を図り、利用しやすい環境を整えるべきではないか。</p> <p>黒田) 磯の観察という「特殊」な環境に限定したキットであれば、現状のまま、備品を常に交換できる予算環境を継続して整えていくことのみ配慮していけばよいと思う。現状でも、順調な利用実績を上げていることは評価できる。ただ、利用する側としては、「海」に限定しない水場での観察まで対応できるキットに発展させていただいたほうが、授業での汎用性も広がるのではないかと感じた。</p> <p>戸枝) キットの内容や数量、観察ノート等、充実している。危険生物の指導等は充分に行われていると思うが、地震時等非常時における避難の指導や周知も充分に行ってほしい。</p> <p>西村) 磯の生物を観察するという極めて基本的な学習キットであると思う。</p> <p>村井) 海の博物館ではあるが、「磯観察キット」のアレンジとして、海に面していない地域の学校でも活用できるよう、池・川・湖・ビオトープなどでも活用できるキットの開発の検討してほしい。県域全体へ提供できるキットを開発していこうとする取組も必要ではないだろうか。また、貸出件数が増えると、安全管理が十分でないケースもあり得るため、安全管理マニュアルの整備や貸出時の指導が重要となってくる。この点にも留意し、運用して行ってほしい。</p>
対 応	<p>○キットの貸与については、これまでの希望が全て県内であったため、顔の見える形で手渡しで行ってきた。これにより利用様態は良好なものとなっている。書面化した諸注意等を同梱しての業者輸送は簡便であるかも知れないが、心の通わない貸与となり、そのためにキットが乱雑に扱われ、破損・劣化等を早めるおそれがある。よって、今後もこれまでの貸与方法を基本とした対処を行っていきたい。</p> <p>○磯観察キットは、海岸での活動に特化した器具とテキスト類(安全管理、観察ノート等)で構成されており、そのまま全てを池・川・湖などでの活動にも転用できるものではない。このため、海に限定しない水場で利用できるキットの制作については、テキスト類の整備をはじめとし、多くの準備が必要で、今後の検討課題としたい。</p> <p>○安全管理については、博物館職員が同行する場合には、危険生物・地震等非常時対応等について、現場で、必ず開始前に児童・生徒に指導を行っている。また、キットのみの貸し出しの場合には、先方の指導者に、同梱の利用マニュアルの安全管理に係わる部分をよく理解した上で、また、それを生徒に十分に伝えた上で、キットを使用するように強く要請している。</p>

館名：現代産業科学館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「ソーラークッカーキット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：小3理科「太陽の光のはたらきをしらべよう」の単元を念頭に、太陽熱が料理を作れるほどの熱エネルギーを有していることを体験することをねらう。発展として、現代社会にとって重要なエネルギーの一つであることや、エネルギー問題への関心を総合学習などで高めてもらうこと。 ○製作：太陽光を効率よく集める資料の有効活用、及び持ち運びできる箱の設計などを工夫した。
段階評価	3.8 [4(石川・黒田・戸枝・村井)、3(加藤)]
所見・指摘	石川) 女性や子供にも興味を持たせるような企画であり、経費的にもよい。 加藤) 館の使命に即したキットで概ね評価できる。 戸枝) 虫眼鏡で光を集めて火をつけるような実験が現在あるかわからないが、反射光型・パラボラ型の違いを説明することは必要であろう。 西村) テーマとしては良い。キットも身近な太陽熱を利用することで日常生活に役立つことが実証される。理解しやすいものである。 村井) 安全に利用でき、運搬もしやすく工夫がなされており、よいキットだと思う。
対応	○キット自体の存在意義はよく評価していただいたと思うが、一部説明不足の点は、添付資料の改善等を検討していきたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○方法：①館 HP で内容、申込方法などを広報。②教員の研修会等で紹介。 ○時期：HP については、常時、研究会等での紹介については、5月～9月にかけて、7回実施している。
段階評価	3.2 [4(西村)、3(石川・加藤・黒田・戸枝・村井)]
所見・指摘	石川) 現代産業科学館の広報の一助としても、努力を望む。 加藤) 更にホームページや来館者に対しての広報活動を行い利用促進を願いたい。 黒田) レシピ集やマニュアルも公開されており、利用者目線に立った情報公開の方法は良いと感じた。ただ、利用実績の伸び悩みを考えると、新たな広報を試す必要性があると思われる 戸枝) 引き続き広報に努め、利用拡大を図ってほしい。 西村) 広報も努力されていることがわかる。 村井) 利用実態に即し、学校だけでなく多様なターゲットに対して、広報活動を促進すべきではないか。
対応	○本事業の目的が「授業に役立つ」であるので、まずは学校利用の促進を図る工夫を行いたい。次年度、教員を対象とし「教員のための博物館の日」事業を新たに実施する予定であるので、その事業の進展に合わせて学習キットの利用拡大も図りたい。また学校以外の潜在的な利用対象については、NPO 等との連携事業を実施する際に広報したい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値：①貸出利用：6件 470 人、②実演・出前：設定なし ○理由：前年度比 1.1 倍以上。ただし、キット本来の活用目的を踏まえ、理科部会での教員向けデモを充実させることにより、職員派遣を伴わずに利用してもらえるよう利用方法の周知に努める。
-------	--

実績・内容	H25.11.末現在 ①貸出利用:4件 309人 (H24実績:5件 423人) ②実演・出前:0件 (H24実績:0件) ●達成率 66.7% [指標未達成]
-------	---

B. 学校以外の利用実績

目標・指標	各館が設定した目標の達成 ○目標値:①貸出利用:6件 630人、②実演・出前:設定なし ○理由:①前年度比 1.1倍以上。②キット本来の活用目的を踏まえ、職員派遣を伴わずに効率的に利用してもらえるよう利用方法の周知に努める。
実績・内容	H25.11.末現在 ①貸出利用:3件 274人 (H24実績:5件 571人) ②実演・出前:1件 16人 (H24実績:1件 39人) ●達成率 66.7% [指標未達成]

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	○方法:一定様式による報告書 ○対象:貸出先担当者 ○結果:利用者からは概ね好意的な反応を得ている。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	○内容:一部を常設展で公開するとともに、教員等に向けデモンストレーションを年数回実施している。 ○実績:7件 182人(市川市小・中理科主任会等でのデモ実績のみ)

段階評価	3.0 [4(黒田・戸枝)、3(加藤・西村)、2(石川・村井)]
所見・指摘	石川) 事業実績を増加させたい。 加藤) 学校以外の利用の広がりや評価できるが、目標達成への方策を更に打ち出していきたい。 黒田) 理科系教員へのデモンストレーションの効果に期待したい 戸枝) 市町村のイベント(おまつり・収穫祭・防災イベント等)への貸出や出前により、館の存在とキットの周知を図るようにしたらどうか。 西村) 広報をもう少し頑張れば、貸出実績の伸びも期待できる。 村井) 貸出要望が多いと聞いたら、利用実績が目標に達していないのはなぜか。検証し、今後の利用促進計画を考えるべき。特に、小学校3年生だけに焦点を当てずに、県民がサバイバルスキルを考えるためのキットとしても広く活用してもいいのではないだろうか。
対応	○次年度夏に、教員を対象とし「教員のための博物館の日」事業を新たに実施する予定であるので、その事業の中で学習キットの周知も図りたい。利用実績が伸び悩んでいることについても、これまでの利用者へのアンケート調査ではなく、利用していない教員の意見を聞く必要があり、そのためにも「教員のための博物館の日」事業を活用したい。

総合評価	3.0 [4(加藤・戸枝・西村)、3(石川・黒田・村井)]
評価内容	石川) 学校、利用者に現代産業科学館を周知するためにも、継続を望む。 加藤) 太陽熱活用だけでなく、黒点活動や季節による太陽高度の変化など興味を広げる伝達も願いたい。 黒田) HP の情報公開の仕方などに工夫もなされており、努力されていることがうかがえる。また、理科系教員に絞ったデモンストレーションを行うなどの改善策も取られており、今後の効果に期待したい。 戸枝) 太陽光を熱として利用する良いキットであると思う。もう少し広報の範囲を広げ、利用の拡大と利用率の向上を図ってほしい。 西村) 安全な学習キットで体験できるテーマである。今後も広報に一工夫し、利用者増につなげる。 村井) 小学校3年生だけに焦点を当てずに、県民がサバイバルスキルを考えるためのキットとしても広く活用し、利用促進を図りたい。
対応	○次年度から始まる「教員のための博物館の日」事業の進展と連動させる方向で、学習キットの利用促進を図りたい。また学校以外利用促進については、館内で実施する地域との連携事業において、周知を図る方向で検討したい。

館名：現代産業科学館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「エレキテル模型」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：小6理科「電気の利用」、小6・中2社会「日本の歴史」、中2理科「静電気とそのはたらき」などの単元での学習の発展形を念頭に、発電のしくみの一例を理解してもらうこと、及び電気への理解を高めてもらうと同時に、江戸時代に、西洋の知識を書物で学んだけで、見たこともない発電装置を開発してしまった平賀源内という人がいたことを知ってもらうこと。 ○製作：できるだけ構造をオリジナルに似せるとともに、静電気での発電がより効果的に生ずるよう工夫した。
段階評価	3.2 [4(黒田)、3(石川・加藤・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	石川) 学校と館とを結びつける良い企画 加藤) 館の使命には即しているが、館ならではの相違工夫も必要ではないか。 戸枝) 平賀源内についてを含め、キットのわかりやすい解説が必要 西村) この学習キット単体だけではあまりに単純であるので、もう一工夫欲しい。 村井) 素材としてはおもしろいが、現代でどう活用していくか、どう学習を発展させていくかがないと、体験して終わりになってしまう(見世物)。この体験や装置をきっかけに、みんなで考える課題やテーマ設定が必要ではないだろうか。
対応	○見世物的な要素が強すぎるという指摘は当館でも認識しており、見世物としての驚きからどのように科学や歴史に興味を導いていくのか、館内で検討したい。そのために必要なキット付属物の開発や、キット自体の改良についても予算要求していきたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○方法：①館 HP で内容、申込方法などを広報。②教員の研修会等で紹介。 ○時期：HP については、常時、研究会等での紹介については、5月～9月にかけて、7回実施している。
段階評価	3.0 [3(石川・加藤・黒田・戸枝・西村・村井)]
所見・指摘	加藤) 利用実績からすると、更なる広報活動が必要ではないか。 戸枝) 引き続き様々な機会での実演を通じ、広報に努めてほしい 西村) 立地も良く、施設も素晴らしいのもう少し認知度を上げたい。
対応	○次年度、教員を対象とした「教員のための博物館の日」事業を新たに実施する予定であるので、その事業を発展させることと併せ学習キットの利用拡大も図りたい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<各館が設定した目標の達成> ○目標値：①貸出利用：3件 220 人、②実演・出前：設定なし ○理由：①前年度比 1.1 倍以上。②はキット本来の活用目的を踏まえ、理科部会での教員向けデモを充実させることにより、職員派遣を伴わずに利用してもらえるよう利用方法の周知に努める。
実績・内容	H25.11.未現在 ①貸出利用：0件(H24 実績：2件 200 人) ②実演・出前：0件(H24 実績：0件) ●達成率 0.0% [指標未達成]

B. 学校以外の利用実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用:6件 630人、②実演・出前:設定なし</p> <p>○理由:①は前年度比1.1倍以上。②についてはキット本来の活用目的を踏まえ、職員派遣を伴わずに効率的に利用してもらえるよう利用方法の周知に努める。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未現在</p> <p>①貸出利用:1件 175人 (H24実績:5件 374人)</p> <p>②実演・出前:0件 (H24実績:0件)</p> <p>●達成率16.7% [指標未達成]</p>

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	<p>○方法:一定様式による報告書</p> <p>○対象:貸出先担当者</p> <p>○結果:利用者からは概ね好意的な反応を得ている。</p>

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	<p>○内容:一部を常設展で公開するとともに、教員等に向けデモンストレーションを年数回実施している。</p> <p>○実績:7件 175人(市川市小・中理科主任会等でのデモ実績のみ)</p>

段階評価	2.3 [3(加藤・戸枝・西村)、2(石川・黒田)、1(村井)]
所見・指摘	<p>石川) 利用実績の増加が重要</p> <p>加藤) 常設展での利活用をすすめ、目標の達成を願いたい。</p> <p>黒田) キットの性質上、理科系教員向けのデモンストレーションのみでは周知は不十分なのではないか。利用実績が上がらない原因の解明を、行ってほしい。</p> <p>戸枝) 学校への広報を多く行う必要がある。科学クラブや民間の科学教室などへの貸出しも考えてほしい。</p> <p>村井) 今後の運用に関して全面的に見直しが必要。</p>
対応	○次年度から始まる「教員のための博物館の日」事業の発展と連動させる方向で、学習キットの利用促進を図りたい。また、エレキテルの博物学的な面白さをしっかり常設展示するとともに、館内でキットを用いたデモンストレーションを行い、エレキテルの仕組みやその時代背景を子どもたちに楽しみながら学んでもらう指導案を考案したい。

総合評価	2.6 3(石川・加藤・黒田・戸枝・西村)、1(村井)
評価内容	<p>石川) 館と利用者、学校とを連携させる一助として、実績増加に努力願いたい。</p> <p>加藤) オリジナルの再現だけではなく、静電気そのものへの理解を促す仕組みも必要ではないか。</p> <p>黒田) 利用実績が伸び悩んでいることも併せ、利用者の現状を把握し、今後の改善、広報に努めてほしい。本キットは理科及び社会分野に利用できるキットでもあることから、例えば房総のむらなどとの連携で授業プログラム開発や広報活動を行うなどの試みを行ってもよいのではないかと感じた。</p> <p>戸枝) 引き続き広報に努力してほしい。常設展で実演や解説をしてはどうか。</p> <p>西村) 産業科学の分野はあまりにも広く、テーマを絞るのも難しいことがあるが、もう少し内容の充実を期待したい。</p> <p>村井) 学校貸出の際は、単体ではなく中央博物館の化石キットのように組み合わせによって、電気について考えることができるキットに再編すべき。併せて学習計画(ねらい等)の検討も必要。また、エレキテル自体の特徴のひとつと言える見世物性を生かし、イベントなどの導入で活用してもらおうなどを検討した方がよいと思う。せっかくなつくた公財を需要に合わせて有効利用していくことも重要。税金の無駄遣いにならないように。</p>
対応	○外部団体との連携事業などでも積極的に活用していきたい。また単体での貸出ではなく、電気について考えることができるキットに再編できるよう、キットの拡充について予算要求を検討したい。

館名：関宿城博物館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「関宿城下町実感キット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画：当館は「河川とそれにかかわる産業」「関宿藩の歴史」をテーマに展示構成されている地域に根ざした歴史博物館である。学習キットづくりは、当館のテーマに沿った地域性に力点を置き、なおかつ社会科等の学習指導要領に対応した模型製作をねらいとし、教員出身の博物館職員を中心にして関宿城・利根川水運・洪水対策の観点から検討した。そして、洪水対策は社会科の授業教材ばかりでなく、災害教育にも利用できることを考慮した。 ○製作：持ち運びが手軽なこと、実物に忠実なこと、一斉授業で使いやすいことを重視し、キットのモデルとなる実物や模型の写真及び設計図を専門業者に送り、縮小版として作ってもらった。
段階評価	2.8 [3(石川・加藤・黒田・戸枝・西村)、2(村井)]
所見・指摘	石川) 主旨には賛同するが、キットに少し工夫が必要である。 加藤) 館の使命に基づいたキットだが、キットの汎用性についての工夫も必要ではないか。 黒田) 実際にどの授業単元で使用できるのか、など、具体的なマッチングも必要だったのではないか。 戸枝) キットと古地図(村絵図や明治大正期の地図)や古写真、航空写真などの組合せも検討してほしい。また、これらの資料を募集していることも地域に対し広報したらどうか。 西村) 地域的なテーマであるので、限られた範囲の人々が対象となるキットである。 村井) 多目的に利用できる、多様な学習に使える汎用性のあるキットになっていない。工夫が必要。
対応	○利活用の対象には、学校教育の側面と、社会教育等一般への普及があり、それらを見据えた内容を組み込んでいくことを検討したい。 ○学校教育の面では教師がカリキュラムに組み込んだ授業(具体的には小学校6学年の社会科における「戦国の世から江戸へ」や中学校2学年の社会科における「産業の発達と幕府政治の動き」の単元に組み込んだ授業)や、博物館職員が講師となって行う出前授業、一方、社会教育等一般への普及では団体見学者や講座受講者に対する解説、生涯大学校・公民館等での出前講座、博物館等における展示会などに利活用できるものと考えられる。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○方法：野田市内の小・中学校へ学習キットを持参し、校長先生へ社会科の授業や展示用として使ってもらうように学習キットの特徴を説明した。 ○時期：夏休み中
段階評価	2.3 [3(加藤・戸枝・西村)、2(石川・黒田)、1(村井)]
所見・指摘	石川) 夏休み中の広報で期待がもてるか、やや疑問である。 加藤) 常設展等で利活用の促進をPRする必要もあるのではないか。 黒田) 実際の授業活用例の公開なども今後期待したい。また学校以外の団体への周知も行う必要がある。 戸枝) 広報に努めてほしい。治水を扱う博物館(松戸市博物館や葛飾郷土天文博物館等)、その近隣の学校等との利用連携が図れないだろうか。 西村) 小中学校への広報をきめ細かく、繰り返すことが必要である。 村井) 地域限定になってしまうのではなく、県域全体に広報展開できるキットに再編が必要。
対応	○広報の仕方には直接的なアプローチと、間接的なアプローチがある。 ○直接的なアプローチには地区社会科部会等の研修での利用案内、地区校長会・教頭会での利用案内、館内に展示コーナーを設け学習キットの内容を周知する方法、出前展示で内容を伝える方法、一方、間接的なアプローチには利用できる情報を的確に盛り込んだホームページでの利用案内、利活用の方法を示したリーフレットの配布などが考えられる。 ○これらの方法を組み合わせながら、広報の充実を図っていきたい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用: 2件 300人、②実演・出前:1件 30人</p> <p>○理由:前年度の実績以上を目指すため。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未実績</p> <p>①貸出利用:0件、②実演・出前:0件</p> <p>●達成率:0.0% [指標未達成]</p>

B. 学校以外の実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用: 2件 3,000人、②実演・出前:1件 30人</p> <p>○理由:前年度の実績以上を目指すため。</p>
実績・内容	<p>H25.11.未実績</p> <p>①貸出利用:1件 35人 (H24 実績:1件 2,943人)</p> <p>②実演・出前:0件 (H24 実績:0件)</p> <p>●達成率:①貸出利用:件数 50%(人数 0.1%)、②実演・出前:0.0% [指標未達成]</p> <p>●理由:貸出利用が目標を達成できなかったのは、博物館や公民館などの社会教育機関へも貸し出しできるといったPRが不足していたものと思われる。</p>

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<利用者意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか>
実績・内容	<p>○方法:口頭 ○対象:図書館</p> <p>○結果:江戸時代の関宿が、どのような町であったかを「関宿城下町実感キット」で視覚的に知ることができたという感想であった。</p>

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか>
実績・内容	<p>○内容:団体解説を予約して見学に来る学校に対し、キットを使って児童・生徒に江戸時代の城下町の様子を解説する。当館が実施している郷土食講座「小麦まんじゅうづくり」において、生地をねかしている時間を利用して、講座参加者へ江戸時代の関宿について解説する。</p> <p>○実績:児童・生徒への解説 7件 293人、参加者への解説 2件 60人</p>
段階評価	2.5 [4(西村)、3(加藤・戸枝)、2(石川・黒田)、1(村井)]
所見・指摘	<p>石川) とにかく実績をあげること。頑張るべし</p> <p>加藤) 常設展での利活用をすすめ、目標の達成を願いたい。</p> <p>戸枝) 引き続き広報に努めてほしい</p> <p>西村) 何か他のプログラムとセットで利用することは効果が上がる。</p> <p>村井) なぜ利用されないのか検証が必要。それをしていないことが問題。</p>
対応	○貸出し以外の利活用として、館内で来館者の目に触れるところに展示コーナーを設ける、館の活動(講座・体験教室など)で積極的に活用する方法が考えられるので、実践していきたい。
総合評価	2.5 [3(石川・加藤・戸枝・西村)、2(黒田)、1(村井)]
評価内容	<p>石川) 館の目的に即した良い企画なので、キットを改良し、継続すべきと史料する。</p> <p>加藤) 地域性の高いキットであるので、利活用拡大には解説文書の充実が必要ではないか。</p> <p>黒田) 館の使命と実際の学習指導要領が合致したキット開発は難しいものであるが、だからこそ様々な外部の意見を取り入れて開発をしてほしい。模型は、実際に見ることのできない光景を体験させるという意味でも学習効果の高いものだと思うので、既存のキットを十分に生かすための具体的な授業プログラムを開発し公開する、なども試してほしい。現状を踏まえるなら、今後、新しいキットを開発することがある場合、模型以外の形態で開発を行ってみたいと思う。</p> <p>戸枝) キットの表示範囲が広いと、各地域の詳細部分が小さくなってしまっている。写真等他の資料の複合的な利用により、キットの効果も上がるのではないかと考える。</p> <p>西村) キット自体も経年劣化しており、利用範囲も狭く難しいので、何かとセットでの活用を考えた方がよい。</p> <p>村井) 模型単独では読み取れない、多様な情報や物語を重層的に提示する工夫が必要。その際、テーマは地域限定でなく、汎用性のあるものがよい。例えば利水、治水、親水など、川や水と人間の関わり。また、水塚模型キットと組み合わせての利活用策も検討すべき。</p>
対応	<p>○関宿城下町から導き出せる内容には、城下町の様子、城郭の構造、武家屋敷と商人地域の位置関係(大多喜城や佐倉城などの状況と比較する)、河川との関係(河岸の役割など)、関所を含めた街道との関係などが考えられる。</p> <p>○これらの内容を理解してもらうためには、「関宿城下町実感キット」だけだと限界があるので、参考となる資料(関宿城下町の様子、他の城郭との比較、大多喜城や佐倉城などの城下町との対比、河岸の様子、街道の様子)を写真や図などで補っていく必要がある。</p>

館名：関宿城博物館

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	学習キット「命を守る施設「水塚」模型キット」
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作の経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法、製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画:当館は「河川とそれにかかわる産業」「関宿藩の歴史」をテーマに展示構成されている地域に根ざした歴史博物館である。学習キットづくりは、当館のテーマに沿った地域性に力点を置き、なおかつ社会科等の学習指導要領に対応した模型製作をねらいとし、教員出身の博物館職員を中心にして関宿城・利根川水運・洪水対策の観点から検討した。そして、洪水対策は社会科の授業教材ばかりでなく、災害教育にも利用できることを考慮した。 ○製作:持ち運びが手軽なこと、実物に忠実なこと、一斉授業で使いやすいことを重視し、キットのモデルとなる実物や模型の写真及び設計図を専門業者に送り、縮小版として作ってもらった。
段階評価	2.8 [3(石川・加藤・黒田・戸枝・西村)、2(村井)]
所見・指摘	石川) 記録・記憶されるべきものであり、館にも地域にも大切な良い企画である。 加藤) 館の使命に即したキットで評価できるが、制作時にもう少し利活用の方策の検討が必要だったのではないかと。 黒田) 実際にどの授業単元で使用できるのか、など、具体的なマッチングも必要だったのではないかと。 戸枝) 単体での説明は難しいのではないかと。他の資料(絵図・地図・写真)で効果を高める工夫が必要。 西村) 学習キットとしてはかなり利用者の限られたキットである。 村井) 素材としてはよいが、地域性に特化せずに汎用性のある学習ができるキット開発に取り組む姿勢がもっと持つべきではないかと。
対応	○利活用の対象には、学校教育の側面と、社会教育等一般への普及があり、それらを見据えた内容を組み込んでいくことを検討したい。 ○学校教育の面では教師がカリキュラムに組み込んだ授業(具体的には小学校4・5学年の社会科における「郷土をひらいた人びと」や「自然災害を防ぐ」の単元に組み込んだ授業)や、博物館職員が講師となっていく出前授業、一方社会教育等一般への普及では団体見学者や講座受講者に対する解説、生涯大学校・公民館等での出前講座、博物館等における展示会などに利活用できるものと考えられる。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	<利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施>
実績・内容	○方法:野田市内の小・中学校へ学習キットを持参し、校長先生へ社会科の授業や展示用として使ってもらうように学習キットの特徴を説明した。 ○時期:夏休み中
段階評価	2.3 [3(加藤・戸枝・西村)、2(石川・黒田)、1(村井)]
所見・指摘	石川) 夏休み中の広報で、期待できるか疑問 加藤) 常設展等で利活用の促進をPRする必要もあるのではないかと。 黒田) 実際の授業活用例の公開なども今後期待したい。また学校以外の団体への周知も行う必要がある。 戸枝) 他地域への広報を行い、「水塚」及び館の周知を図ってほしい。 西村) 野田市内に限らず、利根川沿いの学校を開拓してみたいかと思う。 村井) 地域限定になってしまうのではなく、県域全体に広報展開できるキットに再編が必要。
対応	○広報の仕方には直接的なアプローチと、間接的なアプローチがある。 ○直接的なアプローチには地区社会科部会等の研修での利用案内、地区校長会・教頭会での利用案内、館内に展示コーナーを設け学習キットの内容を周知する方法、出前展示で内容を伝える方法、一方、間接的なアプローチには利用できる情報を的確に盛り込んだホームページでの利用案内、利活用の方法を示したリーフレットの配布などが考えられる。 これらの方法を組み合わせながら、広報の充実を図っていきたい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用:1件 30 人、②実演・出前:1件 30 人</p> <p>○理由:前年度の実績以上を目指すため。</p>
実績・内容	<p>H25.11.末実績</p> <p>①貸出利用:1件 57 人 (H24 実績:0件)</p> <p>②実演・出前:0件 (H24 実績:0件)</p> <p>●達成率:①貸出利用:件数 100%(人数 190%)、②実演・出前利用:0.0% [指標未達成]</p> <p>●理由:アンケート調査によると、学校へ配布されたチラシによって利用したとのこと。今後も、チラシの配布を継続的に実施していく必要がある。</p>

B. 学校以外の実績

目標・指標	<p><各館が設定した目標の達成></p> <p>○目標値:①貸出利用:2件 6,000 人、②実演・出前:1件 30 人</p> <p>○理由:前年度の実績以上を目指すため。</p>
実績・内容	<p>H25.11.末実績</p> <p>①貸出利用:2件 4,157 人 (H24 実績:1件 5,972 人)</p> <p>②実演・出前:0件 (H24 実績:0件)</p> <p>●達成率:①貸出利用:件数 100%(人数 69.3%)、②実演・出前利用:0.0% [指標未達成]</p> <p>●理由:貸出利用の件数は目標を達成したとはいえ、博物館だけなので、その他の社会教育機関へPR する必要がある。</p>

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	<p><利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか></p>
実績・内容	<p>○方法:アンケート調査 ○対象:小学校</p> <p>○結果:「水塚」模型キットを貸出した際、「キットそのものはわかりやすいもので、児童はとでもひきつけられました。ただ、展示用ケースが大きいので、学校という場での扱い、持ち運びには苦労しました」というコメントがあった。キットの大きさについては、これ以上小さくすると授業では見づらくなってしまっているので、大きさは現状のままとし、扱い方や持ち運びにおいて工夫したいと思う。</p>

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	<p><貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか></p>
実績・内容	<p>○内容:団体解説を予約して見学に来る学校に対し、キットを使って児童・生徒へ水害地域に住む人々の洪水対策について解説する。</p> <p>○実績:児童・生徒への解説6件 200 人</p>

段階評価	2.5 [3(加藤・戸枝・西村)、2(石川・黒田・村井)]
所見・指摘	<p>石川) 学校を通じての活用あるいは来館者への説明で実績を増やすことがすべてか。</p> <p>加藤) 常設展での利活用をすすめ、目標の達成を願いたい。</p> <p>黒田) 今後も利用者の声を受けた改善を行ってほしい。</p> <p>戸枝) 常設展に実物大の「水塚」があるので、集会室等を利用する各種講座の時等に展示しておくとも検討してほしい。</p> <p>西村) 扱いや持ち運びがもう一工夫必要である。</p> <p>村井) 現状のままでは利用促進は望めないと思う。改善は必須。</p>
対応	<p>○貸出し以外の利活用として、館内で来館者の目に触れるところに展示コーナーを設ける、館の活動(講座・体験教室など)で積極的に活用する方法が考えられるので、実践していきたい。</p>

総合評価	2.5 [3(石川・加藤・戸枝・西村)、2(黒田)、1(村井)]
評価内容	<p>石川) 良い企画で、歴史的にも貴重なものなので、自信をもって継続すべきである。</p> <p>加藤) 防災の観点からも、県防災部署との連携や、県内以外での事例も紹介すべきではないか。</p> <p>黒田) ほぼ関宿城下模型と評価を同じとする。しかしながら、継続的なチラシの配布が利用実績につながったことは評価したい。今後も継続して行ってほしい。</p> <p>戸枝) 本キットは単体より、他の資料類を複合的に使用することにより効果が高められるものだと思う。</p> <p>西村) 館の取り扱っているテーマが限定されているので、関連する学習キットを作成するには大変努力が必要と思われる。広い意味での水運やそれに伴う商業についてもう一度考えるのも一つである。</p> <p>村井) 模型単独ではなく、災害を乗り切っていくとすると人類の知恵に焦点を当て、水塚のように千葉県</p>

	<p>内や日本各地、世界で工夫されている技術や知恵を紹介する情報カードやパネルを用意。多角的に視点から学ぶことができるキットに再編をすべき。また、利用実績に見られるように「郷土をひらいた人々」等の単元でも活用できるよう、素材として提供し、事例集を作成することも検討してもらいたい。</p>
対 応	<p>○水塚から導き出せる内容には、避難所としての役割、災害の種類や歴史、河川との関係(全国規模で)、水害との関わり、自助・共助・公助の働きかけなどが考えられる。</p> <p>○これらの内容を理解してもらうためには、「水塚模型キット」だけだと限界があるので、参考となる資料(水害などの自然災害、水塚がある地域の分布、水塚と輪中地域の水屋との対比、水塚と現在の避難所との比較など)を写真や図などで補っていく必要がある。</p>

館名：千葉県立房総のむら

事業名：合同企画事業 授業に役立つ県立博物館プロジェクト「学習キット」の製作と活用

評価対象	縄文土器づくり—文様をつける道具—
評価項目	12 県民からの依頼による学習支援 ③学校連携事業
項目概要	各館に、館の使命に則し、かつ授業に役立つ貸出用学習キットを製作させ、機能的に運用する。 本事業を広く周知し、利用の向上を図る。

① 事業の企画

A. 館の使命・県民(利用者)志向・館の資産

目標・指標	①館の専門性を活かした教材の開発 ②利用者のニーズに応えられる教材の開発 ・製作にあたっての経緯、企画にあたっての学校教員等博物館外部からの意見の反映を行ったか。 ③多目的に使用でき、耐久性のある教材開発 ・想定される利用方法 ・製作にあたっての耐久性等に関する工夫
実績・内容	○企画:小学校の連携授業で縄文土器づくりを実施している。一番問題となるのは、教諭自身が縄文土器を知らないことである。実際に触れたことがないため、土器の説明時にごつごつした土器、ざらざらした土器などという説明で、表面の文様の特徴を生徒に語っていないことがある。実際に土器づくりを体験すると、一番興味を示すのは生徒ではなく教諭である。土器づくりを体験した教諭は、生き生きと縄文時代の授業を行うことができる。しかし、担当教諭は毎年変わるため、その年度ごとに実施方法や道具の準備等毎年同じ話の繰り返しとなっている。縄文土器が弥生時代や古墳時代の土器と変わっているのは、表面に付けられた文様である。この縄文をはじめとする文様が簡単に作りだせるのが本キット製作の動機である。 ○製作:本キットは縄文を付ける縄、円形、平型、丸棒型のへら類から成り立っている。土器の原型ができあがった時点で、添付した写真を元にへら等を動かせば、簡単に縄文土器の模様が描き出せる。また、作業時に水と粘土を使用するため、添付した写真等は耐水パウチで被覆してある。授業では生徒を班ごとに分けて実施するので、6セットを作成してプラスチックの箱に収めた。使用後の洗浄も簡単である。
段階評価	4.0 [4(石川・加藤・黒田・戸枝・村井)]
所見・指摘	石川) 館に即した事業で、学校教材としてもよい企画である。 加藤) 県の歴史的な資源を伝承するキットとして評価できる。 黒田) 歴史を体感できる館の使命とキットの狙いが合致している。 戸枝) キット内容は工夫されており、運搬のための配慮もなされている。 村井) 指定管理者制度を導入しているため、開発予算0で取組。これまでの事業で足りない部分を補うキットを作成。館内外でも利用できるものとなっている。
対応	○主な利用対象者は小学校の教諭の方々である。今後も、教職員研修会などの機会に、現役の教諭の方々との意見を交換しながら、内容の充実を図っていきたい。

② 事業の周知

B. 地域での広報

目標・指標	利用に直接結び付くような、各館による独自の広報活動の実施
実績・内容	○方法:製作後、キットをWEBで紹介している。また、土器づくり教室を開催している博物館等にも口コミで紹介している。連携授業を行っている小学校では6月の土器づくり体験授業で使用した。そのおりに改良点などを聴取した。また、教員の夏期研修の場では展示をし、その使用法等を説明した。
段階評価	3.4 [4(加藤・村井)、3(石川・黒田・戸枝)]
所見・指摘	加藤) ホームページは独自で作成できるので、動画の活用など他の範となる試みを実施願いたい。 黒田) 実際どのように使うのか、利用風景などの紹介がWEBにあってもよいのではないか。学校以外の団体への周知活動も継続して行ってほしい。 戸枝) 連携授業を行っている小学校の教員による口コミ、広報に期待できる。 村井) 土器作りの基本編として活用できることを生かし、効果的な広報活動を行っていると思う。
対応	○利用風景を動画などでホームページ上にアップし、活用例を分かり易く示して利用を促したい。

③ 事業の成果

A. 学校での利用実績

目標・指標	各館が設定した目標の達成 ○目標値:未設定 ○理由:平成25年度に試作したものであり、今年度から使用を開始したばかりである。そのため具体的な数値目標は設定していない。
実績・内容	①貸出利用:H25 実績値:0件 0人 ②実演・出前利用:H25 実績値:1件 14人 ○キット試作年度としては予想どおりの使用状況である。

B. 学校以外の実績

目標・指標	○目標値:未設定 ○理由:平成25年度に試作したものであり、今年度から使用を開始したばかりである。そのため具体的な数値目標は設定していない。
実績・内容	①貸出利用:H25 実績値:0件 0人 ②実演・出前利用:H25 実績値:0件 0人

C. 利用者意見の聴取

目標・指標	利用者の意見を聴取し、キットの改善や開発に役立っているか。
実績・内容	○方法:授業実施校の教員より直接聴取 ○対象:教員・土器づくり体験生徒 ○結果:使用に当たって講師の指導が必要なので、教員でも使用できるような動画等の希望があった。また、当初、普通学級での歴史授業の導入としての土器づくりを考えていたが、教員研修会での体験使用や特別支援学級での粘土細工に使用が可能であるとのこと指摘をいただいたので、今後その方面も検討したい。

D. 貸出し利用時以外の活用

目標・指標	貸出し利用時以外にはどのように活用し、実績はどうか。
実績・内容	○内容:博物館での土器・埴輪製作体験 ○実績:4件/35人

段階評価	3.4 [4(加藤・戸枝)、3(石川・黒田・村井)]
所見・指摘	石川) 本企画は教員の体験が最大の実績向上になるのではないかと。 加藤) 体験演目でも活用をすすめるなど、利活用の増加に努めていただきたい。 黒田) 初年度であるため、今後に期待したい。また、利用者の意見を継続的に取り入れ、改善に生かしてほしい。 戸枝) 引き続き各種体験講座を実施し、リピーターの確保、入館者数の拡大に努めてほしい。 村井) 今年度は試行期間として、PR を兼ねた実演・出張となっているが、今後、どのような分野に貸出が可能か検討した上で、来年度に臨んでほしい。
対応	○現在、館の体験事業として行っている「土器作り」「ミニチュア土器作り」の他、関連した体験の際に、活用を進めるようにしたい。また、夏期の教職員研修会には実際に使用・解説しながら活用を呼びかけたい。

総合評価	3.4 4(加藤・戸枝)、3(石川・黒田・村井)
評価内容	石川) 良い企画であり、貸出し実績の向上と共に、館内での体験に活用してもよいのではないかと。 加藤) 利用に際して「語り部」の能力が関心度、理解度を深めるので、語り部養成に努めていただきたい。 黒田) 今年度の使用状況、利用者の意見などを生かして、今後の改善に生かしてほしい。 戸枝) 文様をつける道具は縄文土器の研究から作りだされたものであり、粘土板での文様を確認したうえで土器に移すことができるよう工夫されている。土器作りは児童生徒にとって貴重な体験であり、古代史・歴史に興味を持つきっかけにもなる。 村井) 学校だけに限らず利用できる汎用性の高いキット。美術や表現教育など、学校の単元だけでなく、多様な施設や場所、子供から高齢者まで、外国の方も利用できるもの。利用形態を絞らず、多様に県民に利用されるよう事業展開してほしい。美術館、中央・大多喜・関宿城博物館などでも利用可能なキットであり、県全体で利活用を図ってほしい。
対応	○使用の際の解説については個人の技量に頼るだけでなく、そのノウハウを館職員が共有できるよう、館内の体験時なども研修の場として活用していきたい。